
赤の盟約

ぽいすて

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤の盟約

【Zコード】

N4191Q

【作者名】

ぽいすて

【あらすじ】

人ではない存在が力を持つ世界で、召還士見習いジェシカは安定した生活を送るべく、召還士養成学院で修業中。今は亡き父から受け継いだ自由気ままな使い魔にイラッとしながらも、周囲に負けないように頑張ってきた。でも彼女には召還士として致命的な欠点があつて・・・ジェシカと少しの秘密をたどる物語。

ピラミッドの頂点

この世界の頂点は人ではない。

人に知恵がないのか？

否。彼らには国家、宗教を構成する知恵がある。

人に闘争心がないのか？

否。彼らは今まさに世界のあちこちで国家間の闘争を繰り広げ、自國を広げようとしている。

では人の数が少ないのか？

否。高度な知恵を持つ存在の中で、世界のあらゆる場所にコミュニティを形成しているのは間違いなく彼らである。

ではなぜ人がピラミッドの頂点に立てないのか。それには明瞭な答えがある。

絶対的に勝ち目のない存在。

時代の節目節目に現れるのは、人よりも遙かに上位の者達だった。どの国の書物にも記される、実在する伝説。

人は時折思い出したように気まぐれに干渉され、逆鱗に触れた折には殺戮され、時に問答無用に蹂躪されてきた。

人はそれを”世界の意思”と呼ぶ。

ジョシカ・クライン

「次。ジョシカ・クライン
「　はい」

ジョシカはなるべく平氣な顔をして、陣の前に立った。教師が描いた、練習用の安全な召喚陣だ。

「呼吸を落ちつけて。自分が何を呼ぶのか言つてじゅうと」

穏やかな教師の声に頷いて、はつきりと言つ。

「五位のマー・ミル、虹が好きな、穏やかな方を」

聞いた生徒が小さく笑つた。最下位の精靈を呼ぶことくらい、彼らの中にできない者はいない。

ジョシカはそれを気にとめないよう努めて、気持ちを落ち着けた。そして、これまで何度も口にした詠唱を今一度詠う。

詠唱は召喚するものを呼ぶ　　というより「お呼びする」、つまり願うための言葉の連なりだが、ジョシカはまさに祈るような気持ちで精靈に呼びかけた。

それは一次一句違わず流麗で、ささいなミスもない。こればかり練習をしたのだから当たり前だ。この詠唱だけで成績が決まるなら、

彼女はこのクラスで一番優秀な生徒だと言えた。

けれど それほど完璧に詠唱を終えても、陣にはひとつ変化もない。

「記録更新だ！」

耐えきれず、大きな声で笑い出す幾人ものクラスメイト。

泣いたら負けだ。そう思いながら、ジェシカの指先は冷たく、思考は沈んでいく。

彼らが笑うのは変なことじゃないし、私がかわいそุดなんて思わない。召喚できないほうがおかしいから笑っているのだ。みんな出来てるのに。私も頑張ってるのに。

教師がクライメイトを諫めることはない。ただ真っ白な顔のジェシカを見て、憂い顔で「もう一度」と言う。それに返事をして詠唱を始めながら、腹立しさと悔しさと、申し訳なさでいっぱいだった。

結局同じことを二度繰り返したが何も起こらず、ジェシカは課題を言い渡された。

ややめく気がなにを言つてゐるのかくらい、ジェシカは知つていた。

”無能のくせに、なにしにきたの？”

ヴァイレン召喚士養成学院。

召喚士を目指す子供達が学ぶ場所で、ジェシカ・クラインは入学以来一度の召喚にも成功できない落ちこぼれだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4191q/>

赤の盟約

2011年5月23日02時51分発行